

④7 広島県庁舎本館等耐震化事業

受賞機関 広島県

キーワード 公共建築百選、耐震補強、大空間執務室、防災拠点

全建賞審査委員会の評価ポイント

広島県庁舎本館等の耐震化事業。公共建築100選に選定された戦後モダニズムの外観意匠の保全に併せて、執務室の大空間化を実現するために、複数の既往技術を組み合わせるなどの創意工夫により、防災拠点としての耐震安全性を確保するとともに良好な景観形成と執務環境向上を実現している点が評価された。

1. はじめに

広島県庁舎の本館・南館・議事堂（以下「本館等」と言う）は、戦後約10年が経過した昭和31年2月に竣工した。広島の戦災復興を特徴づけるモダニズム建築として、旧建設省が平成10年に選定した公共建築百選にも選ばれており、築60年以上が経過した現在も、多くの職員が執務する建物である。

2. 事業の概要

本館等は、大規模災害発生時に防災拠点となる本庁として、耐震化を図ることとなった。併せて、来庁者の利便性や職員の執務環境の改善のため、内装、設備、外壁等の改修も行い、建物全体の適切な維持保全を図った。

設計の際の基本方針は次の通りである。

- ①防災拠点として災害時に安全に機能する庁舎とする。
- ②公共建築百選に選ばれた竣工時の外観を、できる限り変えないようにする。
- ③時代に合わなくなった仕様や機能はアップデートを図る。

本館等の耐震補強に関しては、鉄骨ブレース設置、柱補強、既存壁の増厚等の在来補強工法を基本とした。

また、本館等と同一敷地内にある北館・農林庁舎は、地震時の液状化対策として、高圧噴射攪拌工法による地盤改良工事を実施した。同敷地内の各建物では、防潮板設置等による津波に対する浸水対策工事も行った。

執務環境の改善として特筆すべきは、本館上階（3～6階）は、耐震補強要素をコア部や東西端部に集中させる等の補強計画の工夫により、既設の執務室を仕切る壁を撤去して、東西約120mの大空間執務室を確保したことである。

天井も撤去し、広がりを感じられる開放的な空間を形成するとともに、レースウェイに設備配線や照明を設置することで、組織改編時にもフレキシブルな什器配置を可能としている。



本館4階執務室（完成後）

3. 事業の成果

今後は大規模地震が発生した際に、本館等も防災拠点としての機能が十分発揮できるものとなった。また、殆どの補強ブレースを建物内側に設置するなどして、既存建物の軽快な印象を保ち、県民に親しまれたモダニズム建築の外観を堅持している。



本館・玄関棟・南館西面（完成後）

4. おわりに

本事業は、各棟を工区分けし、各工区内の執務機能を本庁内他棟や工事完了した棟に仮移転させながら改修工事を行ったため、関係者間で多くの調整を要した。その中で、大きな事故もなく計画期間内に事業完了したのは、設計者、施工者並びに来庁された県民の方々をはじめとした関係者のご尽力の賜物であり、感謝の念に堪えない。

今後も県民にとって親しみやすい建物として、県職員の快適な職場として、適切な維持保全を図っていく。

賛助会員 大成建設㈱